

平成 23 年度プレパンデミックワクチンの備蓄株（案）

平成 23 年 8 月 8 日

新型インフルエンザ専門家会議ワクチン作業班

1 今年度の備蓄株（案）

- 平成 23 年度プレパンデミックワクチン備蓄株としてアンフィ株を選定する。

2 理由

- 備蓄株の選定に当たっては、①現在の鳥インフルエンザの流行状況、②プレパンデミックワクチンの備蓄状況、③交叉免疫性、④製造効率の 4 つの観点から検討した。

①現在の鳥インフルエンザの流行状況

- ・ 現在、世界で鳥インフルエンザの人への感染の原因となり、また鳥類における流行の主流となっているのは Clade2（インドネシア株、チンハイ株、アンフィ株）であり、Clade1（ベトナム株）の流行は限定的である。

②プレパンデミックワクチンの備蓄状況

- ・ 現在、ベトナム株、インドネシア株、チンハイ株の 3 つの株が備蓄されており、アンフィ株は備蓄されていない。

③交叉免疫性

- ・ 臨床研究などから、Clade1（ベトナム株）が最も幅広い交叉免疫を誘導することが確認されているが、Clade2 についても、インドネシア株、アンフィ株の 2 株については、他の亜型のウイルスとある程度幅広く反応する交叉免疫が誘導されることが確認されている。

④製造効率

- ・ ベトナム株は、製造効率が悪く、短期間に必要量を確保することが困難であるが、他の 3 株（インドネシア株、チンハイ株、アンフィ株）の製造効率は良好であり、年度内に 1000 万人分生産することが可能である。

- 以上の 4 つの観点から総合的に判断すると、今年度の備蓄株としてアンフィ株を選定することが適当である。なお、アンフィ株は、現在、日本の鳥類間で流行している亜型であり、鳥インフルエンザの防疫業務従事者への接種を要する場合にも対応が可能となる。

（参考）現在の流行状況及び備蓄状況

ワクチン株	世界の流行状況	備蓄状況
Clade1 （ベトナム株）	○ ベトナムとカンボジアの一部で限局して流行している	○ 平成 18 年度備蓄（期限切） ○ 平成 22 年度備蓄
Clade2.1 （インドネシア株）	○ インドネシアで鳥及び人で感染が起きている	○ 平成 18 年度備蓄（期限切） ○ 平成 22 年度備蓄
Clade2.2 （チンハイ株）	○ エジプトで鳥及び人で感染が起っており、近年人への感染が増加傾向にある	○ 平成 20 年度備蓄
Clade2.3 （アンフィ株）	○ 日本を含む東アジア、東南アジア、バングラデシュ及びネパールの鳥類で流行している	○ 平成 19 年度備蓄（期限切） ○ 現在は備蓄無

